

経 済 学 科

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
政治経済学 I (Political Economy I)					政治経済学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	月 3	江 原 慶 E-mail keiehara@oita-u.ac.jp 内線 7681
授 業 の 概 要	「政治経済学 I」および「政治経済学 II」では、「初級政治経済学」で学んだ「資本主義」の基礎理論について、より深く考察します。前期の「政治経済学 I」では、まず資本主義における市場に焦点を当て、その構造を分析するために必要となる、商品・貨幣・資本といった概念について説明します。特に、商品の要件や貨幣の役割、資本という概念の捉え方をより詳しく学びます。そうした概念を踏まえて、資本主義の市場が、その構造を変容させる可能性をもつことを、理論的に検討します。その後、資本がその運動に取り込む対象として、労働という人間の活動の特徴を分析します。				
具体的な到達目標					
目標 1	商品から始まる経済学の基礎理論を理解できるようになる。				
目標 2	商品・貨幣・資本の各概念を体系的に関連づけ、資本主義の市場を理論的に考察できるようになる。				
目標 3	信用機構の原理を理解できるようになる。				
目標 4	資本主義の市場が構造的に変容する可能性を、理論的に検討できるようになる。				
目標 5	労働という人間活動の特徴を理解できるようになる。				
授業の内容					
1	はじめに				
2	モノと商品				
3	商品の二要因				
4	商品の価値形態(1)：価値の表現				
5	商品の価値形態(2)：価格の概念				
6	価値増殖				
7	変容する貨幣と資本(1)：物品貨幣から姿態変換型へ				
8	信用機構(1)：商業信用				
9	信用機構(2)：銀行				
10	変容する貨幣と資本(2)：資産集積型から信用貨幣へ				
11	市場の完結性と浸透力				
12	労働過程				
13	協業				
14	分業				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	受講者には、moodleにて講義に対するコメントを求めます。そこでの学生の意見や質問を講義にとりいれ、逐次要望にお応えします。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書をあらかじめ読んでわからない点をチェックしておく。			
	事後学修	授業で習った内容の確認をおこなう。moodleにてコメントを記入する。			
教 科 書	『これからの経済原論』(さくら原論研究会編、ばる出版、2019年)				
参 考 書	『経済原論』(小幡道昭著、東大出版会、2009年)。詳しくは授業時に指示します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	平常点			30	
期末試験			70		
注意事項					
備 考	各回の講義内容が互に関連しているため、欠席する場合は、講義資料や参考書等で該当箇所を補ってください。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる 実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
政治経済学Ⅱ (Political Economy Ⅱ)					政治経済学Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	後期	月 3	江原 慶 E-mail keiehara@oita-u.ac.jp 内線 7681
授業の概要	「政治経済学Ⅰ」および「政治経済学Ⅱ」では、「初級政治経済学」で学んだ「資本主義」の基礎理論について、より深く考察します。後期の「政治経済学Ⅱ」では、まず、「政治経済学Ⅰ」で学んだ労働と労働組織の特徴を踏まえ、資本主義のもとでの労働組織のあり方を分析します。続いて、生産という概念についてより詳しく学びます。特に、社会的再生産という捉え方と、労働市場の構造に立ち入って考察します。その後、それまでの生産についての理解を前提に、それを処理する市場のしくみについて、価格機構に焦点を当てて考えます。その上で、取引所などを備えた資本主義の市場組織についてまとめ、最後に、資本主義の基礎理論の総まとめとして、景気循環の理論的考察を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	資本主義における労働の特徴を理解できるようになる。				
目標2	社会全体における生産過程を構造的に捉える方法を身につける。				
目標3	資本主義の市場における価格決定問題を解けるようになる。				
目標4	制度的に整えられた特殊な市場特徴を理解できるようになる。				
目標5	資本主義における景気循環を理論的に考察できるようになる。				
授業の内容					
1	はじめに				
2	工場制				
3	問屋制				
4	独立小生産者				
5	機械				
6	労働市場				
7	生産過程				
8	生活物資と総労働量				
9	搾取の理論				
10	生産価格				
11	複数生産条件の処理(1): 生産条件の優劣				
12	複数生産条件の処理(2): 地代				
13	市場組織				
14	景気循環				
15	まとめ				
アクティブラーニング	受講者には、moodleにて講義に対するコメントを求めます。そこでの学生の意見や質問を講義にとりいれ、逐次要望にお応えします。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	教科書をあらかじめ読んでわからない点をチェックしておく。			
	事後学習	授業で習った内容の確認をおこなう。moodleにてコメントを記入する。			
教科書	『これからの経済原論』(さくら原論研究会編、ばる出版、2019年)				
参考書	『経済原論』(小幡道昭著、東大出版会、2009年)。詳しくは授業時に指示します。				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	平常点			30	
	期末試験			70	
注意事項	「政治経済学Ⅰ」の内容を理解していることが前提の講義です。				
備考	各回の講義内容が互いに関連しているため、欠席する場合は、講義資料や教科書・参考書等で該当箇所を補ってください。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の 実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験を 実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
初級マクロ経済学 (Introduction to Macroeconomics)					経済学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期 後期	木 3 金 1	村 山 悠 E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp 内線 7716
授業の概要	<p>はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学、特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し、専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得することを目標とします。また、現実の経済問題について論理的に考える力をつけることをねらいとします。</p>				
具体的な到達目標					
目標 1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。				
目標 2	乗数効果を説明できる。				
目標 3	財・サービス市場における需要と供給を説明できる。				
目標 4	資産(貨幣)市場における需要と供給を説明できる。				
目標 5	経済モデルに基づき、財政金融政策の効果について説明できる。				
授業の内容					
1	マクロ経済学とは				
2	マクロ経済学のとらえ方(1) 貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果				
3	マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは				
4	マクロ経済における需要と供給				
5	財・サービス市場：有効需要と乗数メカニズム				
6	資産(貨幣)市場(1) 貨幣供給と信用乗数				
7	資産(貨幣)市場(2) 貨幣需要と利率				
8	まとめ(1)				
9	財政政策の基本構造(1) 乗数				
10	財政政策の基本構造(2) 公債の負担の問題				
11	財政・金融政策とマクロ経済：政策目標・政策手段と貿易問題				
12	財政・金融政策のメカニズム(1) 金融政策と有効需要				
13	財政・金融政策のメカニズム(2) 財政政策とクラウディング・アウト効果				
14	財政・金融政策のメカニズム(3) IS-LM分析と財政・金融政策				
15	まとめ(2)				
アクティブ ラーニング	練習問題・小テストを解く。			その他の 授業の工夫	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書の内容を確認すること(7h)。マクロ経済学の考え方を意識しながら日本経済新聞を読むこと(7h)。			
	事後学修	講義を基にした教科書、小テストの振り返り(15h)。			
教科書	「マクロ経済学 第2版」伊藤元重著(日本評論社)				
参考書	『マクロ経済学・入門 第5版』福田慎一 照山博司著(有斐閣アルマ)、『マンキュー マクロ経済学 入門篇 第4版』N.G.マンキュー著(東洋経済新報社)、など。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末レポート			60	
	小テスト			40	
注意事項	詳細な注意事項等は、第1回目の講義で説明します。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
中級ミクロ経済学 (Intermediate Microeconomics)					ミクロ経済学 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	4	2, 3, 4	後期	月 3 火 3	村 山 悠 E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp 内線 7716
授業の概要	この講義の目的は、経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について、中級レベルの内容を理解することである。主に、家計の消費行動、企業の生産の決定、市場と均衡、独占などの不完全競争市場について学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標 1	経済学検定試験 ERE レベルの問題を解けるようになる。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ミクロ経済学とは何か？ミクロ経済学で使う数学について	16	生産の決定(4)		
2	需要と供給(1)	17	市場と均衡(1)		
3	需要と供給(2)	18	市場と均衡(2)		
4	消費の理論(1)	19	市場と均衡(3)		
5	消費の理論(2)	20	市場と均衡(4)		
6	消費の理論(3)	21	市場と均衡(5)		
7	消費理論の応用(1)	22	独占(1)		
8	消費理論の応用(2)	23	独占(2)		
9	消費理論の応用(3)	24	独占(3)		
10	企業と費用(1)	25	寡占(複占)：クールノー・モデル(1)		
11	企業と費用(2)	26	寡占(複占)：クールノー・モデル(2)		
12	企業と費用(3)	27	寡占(複占)：クールノー・モデル(3)		
13	生産の決定(1)	28	寡占(複占)：シュタッケルベルグ・モデル(1)		
14	生産の決定(2)	29	寡占(複占)：シュタッケルベルグ・モデル(2)		
15	生産の決定(3)	30	寡占(複占)：シュタッケルベルグ・モデル(3)		
アクティブ ラーニング	小テストによる自己評価			その他の 授業の工夫	Moodle の活用
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	講義資料を読むなどの予習 (30h)			
	事後学修	小テスト・講義内容などの復習 (30h)			
教科書	教科書は指定しない。講義資料を使う。				
参考書	講義中に紹介する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法		割合(%)		
	小レポート		70		
	期末レポート		30		
注意事項	①高校レベルの数学、特に微分をできるようにしておくこと。 ②Zoomを使って遠隔授業を行う予定です。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
中級マクロ経済学 (Intermediate Macroeconomics)					マクロ経済学 I・II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	4	2, 3, 4	前	火 3 木 4	宇 野 真 人 E-mail munoo@oita-u.ac.jp 内線 7676
授業の概要	経済活動の中で重要なキーワードがある。それは所得・利子率・為替レートだ。それらは相互に影響し合っている。その関係を理解してもらうことがねらいである。				
具体的な到達目標					
目標 1	公務員試験や経済学検定試験など各種試験レベルの問題を解く力をつけることが目標です。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	GDPの成り立ち				
3	総需要と総供給(1)				
4	乗数分析(1) - 政府支出乗数 - 投資乗数 - 貿易乗数				
5	乗数分析(2) - 均衡財政乗数 - 租税乗数				
6	投資と利子率				
7	IS曲線の成り立ちと意味				
8	実質利子率と名目利子率				
9	貨幣の需要と供給と利子率の決まり方				
10	貨幣需要				
11	貨幣供給				
12	金融政策と利子率				
13	LM曲線の成り立ちと意味				
14	IS-LM分析と財政政策が所得と利子率に与える効果				
15	IS-LM分析と金融政策が所得と利子率に与える効果				
アクティブ ラーニング	講義終わりに10分程度の小テストを実施し理解度を高める工夫を行っている。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	本講義で配布する教科書以外にもマクロ経済学の本に触れておくと理解が早まります。講義前に1時間ないし2時間程度?(個人差あります)			
	事後学修	小テストや教科書にある練習問題の習った個所について繰り返し解く。1時間ないし2時間程度?(個人差あります)			
教科書	開始時に配布 ※諸事情で配布については初回に間に合わないことがあります。				
参考書	ガイダンス時に提示				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	小テストは合計10回の予定 中間テストは持ち込み可で理解度を確認 します。
	小テスト			30	
	中間テスト			30	
	期末テスト			40	
注意事項	4単位の講義で、週二回の講義があります。単位取得希望者は中間テストと期末試験は受験必須です。				
備 考	昨年まで開講されていたマクロ経済学Iとマクロ経済学IIを二つ合体させた感じの講義です。ω ※オンラインで実施する場合は試験の実施形態などが異なりますので、初回講義の際に詳細を説明します。				
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験を いかした教育 内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
応用ミクロ・マクロ経済学セミナー (Microeconomics and Macroeconomics study)					マクロ経済学セミナー ミクロ経済学セミナー
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	火 5	小 野 宏 E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710
授業の概要	ミクロ・マクロ経済学の練習問題を解くことにより、ミクロ・マクロ経済学の習熟度を高めることをねらいとする。				
具体的な到達目標					
目標1	経済学検定試験EREに出題される問題を解けるようになる。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	消費者行動(1)				
2	消費者行動(2)				
3	消費者行動(3)				
4	企業行動(1)				
5	企業行動(2)				
6	企業行動(3)				
7	市場均衡分析(1)				
8	市場均衡分析(2)				
9	財市場分析				
10	乗数				
11	IS曲線				
12	LM曲線				
13	IS-LM分析				
14	総需要総供給分析				
15	経済成長理論				
アクティブ ラーニング	練習問題・小テストを解く			その他の 授業の工夫	Moodleの活用
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	ミクロ・マクロ経済学の復習 (15h)			
	事後学修	練習問題の復習 (15h)			
教科書	教科書は初回授業で指定する。				
参考書	『経済学検定試験 ERE 問題集』経済法令研究会				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	小テスト			20	
	期末試験			30	
	経済学検定試験ERE			50	
注意事項	7月に行われる経済学検定試験EREミクロ・マクロを必ず受験してもらいます。				
備 考					
リン ク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
現代資本主義論 (Theory of Modern Capitalism)					現代資本主義論 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3,4	前期	集中	磯 谷 明 徳 (下関市立大学 特命教授) E-mail isogai.akinori@sky.plala.or.jp 内線
授業の概要	<p>「制度が重要である」という認識は、20世紀末からの現代経済学における多くの研究者たちによって共有されてきたものである。この共通の認識の下、研究者たちによる制度の「再」発見を通じて、制度経済学は新たな再生を遂げた。この再生から、新制度派経済学や現代制度派経済学、比較制度分析、企業と組織の経済学、制度と進化の経済理論など、多様なアプローチが登場した。本講義では、20世紀末からの制度経済学の多様な展開から得られる知見を踏まえた上で、制度経済学の基礎的枠組みを、「貨幣」、「労働」、「動学」という3つの視点から理解し学習するとともに、それを現代資本主義の分析に応用するための理論的・実証的枠組み学ぶことを目的とする。</p>				
具体的な到達目標					
目標1	現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。				
目標2	現代資本主義を理解するための現代の経済学のメニューは、新古典派経済学とは異なり多様であることを理解する。				
目標3	新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアン・マクロ経済学の理論的枠組みを理解する。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション：社会経済システムへの制度論アプローチ①				
2	社会経済システムへの制度論アプローチ②				
3	社会経済システムへの制度論アプローチ③：資本主義の多様生論				
4	市場への制度論アプローチ①：制度としての貨幣・市場／市場システムの制度的特徴				
5	市場への制度論アプローチ②：寡占市場と価格の硬直性／価格調整と数量調整				
6	貨幣的生産の制度分析①：有効需要論の貨幣的基礎／貨幣需要と流動性選好				
7	貨幣的生産の制度分析②：内生的貨幣供給／金融システムの不安定性				
8	労働市場と賃金・雇用①：2つの労働市場像／賃金と雇用の決定				
9	労働市場と賃金・雇用②：雇用システムの制度的多様性				
10	企業への制度論アプローチ①：新古典派企業像を超えて／企業組織への2つのアプローチ				
11	企業への制度論アプローチ②：株式会社と企業統治／雇用システムと企業統治の制度的補完性				
12	制度動学：短期分析①				
13	制度動学：短期分析②				
14	制度動学：長期分析①				
15	制度動学：長期分析②				
アクティブ ラーニング	すべての回の講義においてミニッツペーパーを提出してもらう。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書や参考文献等を用いた事前の予習。			
	事後学修	配布資料や講義ノート等を活用した講義のテーマと内容の復習と再確認。			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 植村博恭・磯谷明徳・海老塚明『新版 社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年。 宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門 社会経済学』(第2版)ナカニシヤ出版、2010年。 				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 磯谷明徳『制度経済学のフロンティア』(第2版) ミネルヴァ書房、2007年。 Boyer, R., Uemura, H. and Isogai, A. (eds.) Diversity and Transformations of Asian Capitalisms, Routledge, 2012. (Paperback edition, 2013) 植村博恭・山田鋭夫・宇仁宏幸・磯谷明徳編『転換期のアジア資本主義』藤原書店、2014年。 Boyer, R., Uemura, H., Yamada, T. and Song, L. (eds.) Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms, Springer, 2018. 				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	ミニッツペーパーの提出			30	
最終試験			70		
注意事項					
備 考					
リンク	講義で使用するPPT資料についてはWeb上で公開する予定である (準備中)。				
	URL				
担当教員の 実務経験の有無	<input type="radio"/>				
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	<input type="radio"/>				
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
計量経済学 (Econometrics)					計量経済学
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	木2	下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683
授業の概要	計量経済学の大きな役割は、実際に観察される経済現象・事象からのフィードバックを通じて経済理論や経済の現状を検証し、理論の適合性や政策の実施やその効果を判断することです。したがって、講義では、経済事象の数値データを収集し、それらを解析することからスタートし、経済理論の仮説検証を行う方法について勉強します。				
具体的な到達目標					
目標1	分析の対象となるデータの様々な特徴や性質、データ間の関係を調べることができる。				
目標2	線形回帰モデルの特徴を説明できる。				
目標3	エクセル等を用いて、線型回帰モデルを使って簡単なマクロ経済モデルの検証ができる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	統計学から・・・記述統計と確率統計				
2	統計学から・・・標本分布と仮説検定				
3	計量経済学の位置付け				
4	時系列データについて				
5	経済学における時系列データ処理				
6	統計処理としてのエクセルの利用方法1				
7	統計処理としてのエクセルの利用方法2				
8	最小2乗法の基礎1				
9	最小2乗法の基礎2				
10	単回帰分析の基礎1				
11	単回帰分析の基礎2				
12	回帰分析の演習1				
13	回帰分析の演習2				
14	マクロ理論からの例を推計				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	学生の理解を確認するため、定期的に課題の提出を求める				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)			
	事後学修	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する (15h)			
教科書	『入門 計量経済学』山本拓・竹内明香				
参考書	『計量経済学』：山本拓『初歩からの計量経済学』：白砂堤津耶『計量経済学』：森棟公夫『計量経済学15講』：小巻泰之・山澤成康				
評 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	定期試験				70
宿題・レポート等の提出物				30	
注意事項					
備考	関連科目：統計学、マクロ経済学など				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で指 導に関わる 実務経験者 の有無					
教員以外の指 導に関わる 実務経験者					
実務経験を いかした教育 内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済数学 (Mathematics for Economics)					経済数学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	水 2	中本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授業の概要	本講義では、経済理論の理解や経済分析に必要となる初歩的な数学（主に微分積分、線形代数）について学ぶ。毎回講義の終わりに小テストを解いて理解を深め、数学スキルの修得をする。				
具体的な到達目標					
目標 1	経済理論の理解や経済分析に必要となる初歩的な数学スキルを修得する。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	1次関数と2次関数				
3	指数・対数				
4	数列				
5	1変数の微分 I				
6	1変数の微分 II				
7	1変数の微分 III				
8	中間試験				
9	多変数の微分 I				
10	多変数の微分 II				
11	多変数の微分 III				
12	多変数の微分 IV				
13	ベクトルと行列				
14	行列演算 I				
15	行列演算 II				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20h)			
教科書	教科書を指定しない				
参考書	尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	小テスト				30
	中間試験				30
期末試験				40	小テスト、中間試験、期末試験から総合的に評価する。
注意事項					
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に 関わる実 務経験者					
実務経 験を いかした 教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
統計学 (Statistics)					統計学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	金 2	中 本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授業の概要	統計学は「科学の文法である」と表現されるように、今日の科学において重要な役割を果たしている。本講義では、統計学の基礎を学ぶことで、統計リテラシーを身に付け、現実社会における経済事象を正しく分析することを目的とする。具体的には講義の前半(第1回～第7回)では、記述統計および確率論と確率分布について学ぶ。また、講義の後半(第9回～第15回)では、推測統計について学ぶ。毎回、講義の終わりに小テストを解いて理解を深め、統計的手法の修得をする。				
具体的な到達目標					
目標 1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。				
目標 2	推定や仮説検定の基礎を修得する。				
目標 3	統計的手法を用いて、現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	度数分布とヒストグラム				
3	データの整理：平均、分散、標準偏差				
4	データの整理：相関関係と因果関係				
5	確率と確率変数 I				
6	確率と確率変数 II				
7	離散確率変数と連続確率変数				
8	中間試験				
9	母集団と標本				
10	正規分布 I				
11	正規分布 II				
12	推定 I				
13	推定 II				
14	仮説検定 I				
15	仮説検定 II				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テスト、教科書の章末問題で復習する。(20h)			
教科書	教科書を指定しない				
参考書	小島寛之『統計学入門』ダイヤモンド社、2006年、森棟公夫ほか著『統計学(改訂版)』有斐閣、2015年				
評 方 価 成 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	小テスト			30	
	中間試験			30	
	期末試験			40	
注意事項	小テストや試験に平方根(√)の計算ができる電卓が必要です。試験では電卓機能を持つ携帯端末(スマートフォンなど)の使用は不可とします。				
備 考					
リン ク	統計WEB統計学の時間(下記URL)を準備学修、事後学修、試験勉強に活用すると良い。				
	URL	https://bellcurve.jp/statistics/course/			
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済学国際セミナー (International Seminar on the Global and Japanese Economy)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 2	柴田茂紀(経) E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	The aim of this course is to give students a series of basic knowledge about global economies.				
具体的な到達目標					
目標 1	Obtained basic knowledge regarding globalization				
目標 2	Become capable at evaluating economic policies in this domain.				
目標 3	Improved their ability to participate in discussions.				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	Introduction				
2	The concepts of global economy				
3	Selected case studies of global economies (article 1)				
4	Selected case studies of global economies (article 2)				
5	Selected case studies of global economies (article 3)				
6	Selected case studies of global economies (article 4)				
7	Global problems (article 5)				
8	Global problems (article 6)				
9	Global problems (article 7)				
10	Global problems (article 8)				
11	Global problems (article 9)				
12	The relationship between Japan and global economy (article 10)				
13	The relationship between Japan and global economy (article 11)				
14	The relationship between Japan and global economy (article 12)				
15	Conclusion				
アクティブ ラーニング	Students need to read assignments before coming to class.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Read the appropriate material before coming to class			
	事後学修	Homeworks to cover this class			
教科書	To be provided by lecturer				
参考書	To be provided by lecturer				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	presentations			70	
reports			30		
注意事項	This course will consist of lectures, discussions and presentations.				
備 考	この授業は留学生が参加する可能性があり、すべて英語で実施します。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
海外キャリア・ディベロップメント・ワークショップ (Overseas Career Development Workshop)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3,4	前期	集中	小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	国際金融論、世界経済論および開発経済論などの専門科目を履修した学生を対象とする海外での学習です。前期終了後の集中講義とし、海外訪問は2月中旬となります。今回は台湾に訪問する計画です。				
具体的な到達目標					
目標1	海外での研修を通じて、より実践的な知識を習得する				
目標2	将来のキャリア形成に役立てる				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	台湾とは(概要)				
3	台湾の歴史				
4	台湾の政治				
5	台湾の文化				
6	台湾の経済				
7	台湾の産業と金融				
8	台湾の対日関係				
9	台湾と東アジア諸国との関係				
10	台湾の多国籍企業				
11	台湾に進出している日本企業				
12	台湾が抱える課題①(グループワーク)				
13	台湾が抱える課題②(グループワーク)				
14	台湾が抱える課題③(グループワーク)				
15	発表とまとめ				
アクティブラーニング	集中講義で訪問先について事前学習し、2月中旬に現地を訪問します。集中講義では台湾歴史・政治・経済・対外関係について学ぶとともに、台湾が抱える課題について、グループで調査・分析し、発表します。			その他の授業の工夫	ドキュメンタリー映画も取り入れ、台湾について理解を深めます。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	スムーズにグループワークが進むように、事前準備が必要になります。			
	事後学修	プログラム終了後レポートを提出してもらいます。			
教科書	授業開始までに指示します。				
参考書	岩井紀子(編)「データで見る東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本」ナカニシヤ出版				
評価方法及び評価の割合	評価方法			割合(%)	
	授業中の態度			25	
	グループワークへの貢献度			25	
	帰国後のレポート提出			50	
注意事項	プログラムに参加する条件として、国際金融論、世界経済論、開発経済論など専門科目を履修していること。				
備考	新型コロナウイルス感染症拡大の状況によって渡航が中止となる場合があります。隔年の開講となります。久保奨学金の支援対象となりますが、旅費や滞在費の一部自己負担が生じます。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の 実務 経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務 経 験 を いかした 教育 内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
国際貿易論 (International Trade Theory)					国際貿易論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	火 3	柴 田 茂 紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	1) 国際貿易の考え方や現状についての理解を深める。 2) 「現実」を考えるための「理論」を学ぶ。 3) 貿易という側面から、現在の「国際経済を見る眼」を養う。				
具体的な到達目標					
目標 1	国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。				
目標 2	国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。				
目標 3	国際貿易に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	国際貿易論の範囲				
2	国際貿易論の基礎理論 (その1)				
3	国際貿易論の基礎理論 (その2)				
4	国際貿易の歴史と理論				
5	国際貿易の歴史と制度				
6	現在の国際貿易システム				
7	進展する地域間貿易				
8	中間のまとめとテスト				
9	国際収支とは何か				
10	国際収支から見えるもの				
11	為替レートと国際貿易との関係				
12	直接投資の考え方				
13	直接投資と国際貿易との関係				
14	事例紹介				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・ 授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・ 授業終了後に、大学のオンライン学習システム (Moodle) で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。			その他の 授業の工夫	・ 欠席した場合は、授業支援システム (moodle) で提示した問題を通じて自習する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布物の予習。			
	事後学修	授業で学んだことを活用し、授業支援システム (moodle) で提示した問題を通じて復習する。			
教科書	配布物に基づいて授業を進める。				
参考書	必要に応じて指示する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	新型コロナの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。
	平常点			60	
	期末試験 (またはレポート)			40	
注意事項	1) 欠席回数に応じて課題がある (遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する。				
備 考	オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと				
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
世界経済論 (World Economy)					世界経済論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	火 3	柴 田 茂 紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	1) 世界経済を理解する上での基礎理論を学ぶ(理論分析)。 2) 世界経済の構造や現状についての理解を深める(現状分析)。 3) 幅広い観点から「世界経済を見る眼」を養う(多角分析)。				
具体的な到達目標					
目標1	世界経済の展開を理解する。				
目標2	近年の世界経済の特徴を理解する。				
目標3	世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	世界経済論の分析対象				
2	グローバル化の特色と変化				
3	技術革新とグローバル化				
4	情報化とグローバル化				
5	「コーヒー」から考えるグローバル化1				
6	「コーヒー」から考えるグローバル化2				
7	フェアトレードの課題と可能性				
8	「カネ」の移動から考えるグローバル化				
9	為替レートの基礎理論1				
10	為替レートの基礎理論2				
11	国際経済統計の分析方法1				
12	国際経済統計の分析方法2				
13	「Tシャツ」から考えるグローバル化				
14	グローバル経済の事例紹介				
15	まとめ				
アクティブラーニング	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。			その他の授業の工夫	・欠席した場合は、オンライン学習システム(moodle)を通じて該当部分を自習することになります。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布物の予習。			
	事後学修	授業で学んだことを活用し、オンライン学習システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。			
教科書	配布資料に基づいて授業を進める。				
参考書	授業を通じて紹介する。				
評 方 成 価 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	新型コロナウイルスの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。
	平常点			60	
期末試験(またはレポート)			40		
注意事項	1) 理由に関係なく、欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する。				
備 考	・オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
開発経済論 (Development Economics)					開発経済論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 4	木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	開発ミクロ経済学のスター研究者2人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、過去20年ほどに蓄積された最新の知見を学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標1	貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。				
目標2	2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	1章「もう一度考え直そう、もう一度」：貧困の罠と永続的貧困、マイクロデータと実験経済学				
2	2章「10億人が飢えている？」：栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか？(1)				
3	2章「10億人が飢えている？」：栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか？(2)				
4	4章「クラスで一番」(1) 子どもへの教育投資はどのように決まるか：教育のミクロ経済学				
5	4章「クラスで一番」(2) ドキュメンタリー『パーミヤンの少年』教育投資と資金制約				
6	4章「クラスで一番」(3)：教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？ Duflo スライド(1)				
7	4章「クラスで一番」(4)：教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？ Duflo スライド(2)				
8	ディスカッション				
9	女性の労働供給と社会的地位(1)：Robert Jensen QJE 2012				
10	女性の労働供給と社会的地位(2)：Robert Jensen QJE 2012				
11	女性の労働供給と社会的地位(3)：The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.				
12	5章「スダルのさんの大家族」(1)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
13	5章「スダルのさんの大家族」(2)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
14	5章「スダルのさんの大家族」(3)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
15	ディスカッション				
アクティブ ラーニング	毎回コメント用紙を配布し、問いを提示するので、受講者は回答を記入する。「問い」は、各界の講義内容で、主要論点は何であったかを、各自再現して記述するというものが主となる。適宜、次回の講義でフィードバックする。			その他の 授業の工夫	このほか、コメント用紙は、質問や、コメント(講義内の議論に関するコメント)を記入することができる。これも、次回の講義でフィードバックし、受講者による議論の発展を図る。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書は事前に読むことを推奨する。論文や雑誌記事(英語)で、事前配布のものは受講前に読む必要があります。			
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解。			
教科書	【教科書】アビジット・バナジー、エステル・デュフロ 2011『貧乏人の経済学：もう一度貧困を根っこから考える』みすず書房。(Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics : A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs, Paper back / Kindle)				
参考書	The Economist “Indian schools : Now make sure they can study” (June 10th 2017). “How india fails its women ?” (July 7th 2018) Robert Jensen 2012, “Do Labor Market Opportunities Affect Young Women’s Work and Family Decisions ?” Quarterly Journal of Economics. 社会規範の持続・変化 (Moral persistence) について諸論文				
評方成 価法績 割及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験。 質問、コメントにボーナススコアが付与される			90 10	
注意事項					
備考	マテリアルは全てpdfをMoodleで配布する。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
アジア経済発展論 (Economic Development in Asia)					アジア経済発展論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	後期	金 4	木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	世界に豊かな地域と貧しい地域があるのは何故か、という大問題に対する探求は、この10年ほど、伝統的な経済学の範疇(成長理論と実証、貿易・産業立地の理論)を飛び越え、政治学、経済史、文化形成など、社会科学のあらゆる分野・トピックにまたがる「制度分析」として大きな発展を見せている。制度分析の最新の知見を見渡すことで、現在の先進国が16-19世紀に現在の先進国が辿った制度移行プロセスによって経済成長を達成できた理由、サブサハラ・アフリカや北朝鮮、西アジアなど、現在の貧困地域が貧困である理由について探求する。				
具体的な到達目標					
目標1	経済発展と政治制度・経済制度、政治体制との関係、制度形成や制度が変化するメカニズムについて、論点を把握すること。				
目標2	明確な問題意識を持ち、論理的に考えられるようになること。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	経済的繁栄はどのように起きたか? 1) A-R 2012 Ch.3				
3	経済的繁栄はどのように起きたか? 2) A-R 2012 Ch.3				
4	政治体制と経済制度が、なぜ成長と停滞を決めるのか: 韓国と北朝鮮				
5	小さな差異と決定的な分岐点 1) A-R 2012 Ch.4				
6	小さな差異と決定的な分岐点 2) A-R 2012 Ch.4				
7	資源の畀と政治体制形成: ナイジェリア(白戸 2014)				
8	資源の畀と政治体制形成: マリ、アルジェリア、コンゴ(白戸 2014, 吉田 2020)				
9	政治体制形成の分岐: コンゴとボツワナ(A-R 2012)				
10	計量経済学の簡便な解説(次の回の実証研究を見るため)				
11	ヨーロッパとアフリカの制度形成と産業革命の因果関係 1) 実証研究 AJR 2005				
12	ヨーロッパとアフリカの制度形成と産業革命の因果関係 2) 実証研究 AJR 2005				
13	豊かな民主国家と貧しい崩壊国家の差がどのように起きたか: 制度形成の分岐				
14	なぜアフリカは貧しいか?				
15	まとめ				
アクティブラーニング	参加者は、毎回Moodle経由でコメント・質問をする。次回の講義でフィードバックがある。論点を発見し、議論を通じて理解の共有、論点整理に役立つ。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書は事前に読むことを推奨する。事前配布の論文(英語)は受講前に読むことが必要です。			
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解。			
教科書	Acemoglu and Robinson 2012. Why Nations Fail? The Origins of Power, Prosperity, and Poverty. New York: Crown Publishers. (鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか: 権力・繁栄・貧困の起源』.)				
参考書	吉田淳 2020. アフリカ経済の真実 一資源開発と紛争の論理. ちくま新書. North, Wallis and Weingust 2009. Violence and Social Orders. Cambridge University Press. (『暴力と社会秩序: 制度の歴史学のために』(叢書 制度を考える) NTT出版.) Acemoglu and Robinson. 2019. The Narrow Corridor: States, Societies, and the Fate of Liberty. (『自由の命運 国家、社会、そして狭い回廊』 早川書房.)				
評方成績評価方法及び評価の	評価方法			割合(%)	
	期末試験 コメント・質問にボーナススコアが付与される			90 10	
注意事項	[参考書] 欄追加: 白戸 圭一 2013『ルボ 資源大陸アフリカー暴力が結ぶ貧困と繁栄』東洋経済新報社. 白戸 圭一 2013『ボコ・ハラムーイスラム国を超えた「史上最悪」のテロ組織』新潮社.				
備考	[参考書] 欄追加: 木宮正史 2014『韓国一民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書. 井上 勝生 2006『幕末・維新』岩波新書. 吉澤 誠一郎 2010『清朝と近代世界』岩波新書. 唐 亮 2012『現代中国の政治―「開発独裁」とそのゆくえ』岩波新書.				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
EUの政治経済 (Politics and Economics in EU)					EUの政治経済
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	木3	デイ スティーブン (経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The goal of this module is to provide learners with : an in-depth understanding of the historical and contemporary development of the European Union, its key institutions, a selection of EU policies, and the process and impact of Brexit. At a time when the EU is facing multiple challenges, within and beyond its borders, this class will also seek to uncover the reasons behind these challenges.				
具体的な到達目標					
目標1	Build up a knowledge and understanding of the EU				
目標2	Facilitate an ability to critically discuss and evaluate why nations choose to integrate				
目標3	Understand why the EU is facing a myriad of challenges and how it is managing them				
目標4	Understand and evaluate the Brexit process				
目標5					
授業の内容					
1	Introductory overview				
2	The world we live in - political and economic factors affecting the EU				
3	The world we live in - political and economic factors affecting the EU (2)				
4	Recalling the reasons behind the establishment of the European Coal and Steel Community (ECSC)				
5	Understanding the integration process - from an FTA to a political union				
6	Key institutions and key policies of the European Union				
7	The European Parliament				
8	European elections and European level political parties				
9	Case Study Brexit - the UK-EU historical relations				
10	The Brexit referendum				
11	The Brexit referendum (2)				
12	The process of leaving the EU - the era of Prime Minister May and Prime Minister Johnson				
13	The impact of the EU-UK trade deal and its initial consequences				
14	The impact of the EU-UK trade deal and its initial consequences (2)				
15	Where is the EU heading? Dealing with recalcitrant member states				
アクティブ ラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include : quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	15hours			
	事後学修	15hours			
教科書	For beginners-John Pinder and Simon Usherwood (2018), The European Union : a very short introduction, (4th edition) Oxford : Oxford University Press. 『「ブレグジット」という激震—混迷するイギリス政治』 スティーブン・デイ・カ久昌幸 共著 2021年, ミネルヴァ書房				
参考書	Additional material will be provided in class				
評方成 価法績 割及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	
	Exam			70	
Class-based exercises			30		
注意事項	The determination to study the European Union (EU) in English and a willingness to participate in classroom based activities				
備考	Preparatory reading prior to some classes so as to facilitate discussion. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
グローバル化と政治経済 (The Politics and Economics of Globalization)					グローバル化と政治経済
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	木 3	デイ スティーブン (経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of globalization from a political and economic perspective as it continues to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has it changed the way we live? Impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism? This leads us to ask an important question : Is globalization the past or the future?				
具体的な到達目標					
目標 1	Develop a knowledge and awareness of global studies				
目標 2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion				
目標 3	Evaluate and dissect key issues surrounding the globalization debate.				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	Introductory remarks				
2	2021 – What type of world are living in?				
3	Remembering the Cold War and the collapse of the Berlin Wall (1945–1989)				
4	From Keynesianism to neo-liberalism				
5	From Keynesianism to neo-liberalism (2)				
6	Understanding globalization – differing perspectives				
7	Understanding globalization – global governance				
8	Globalization – the happiness index and the environment				
9	Globalization and global brands				
10	Globalization and the rise of populism				
11	Globalization and the rise of populism (2)				
12	Evaluating globalization – is there a link between globalization and inequality?				
13	Evaluating globalization – the continuing importance of national sovereignty				
14	Evaluating globalization – borders and identity				
15	What can we expect in the 2020s?				
アクティブ ラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include : quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	15 hours			
	事後学修	15 hours			
教科書	Manfred B. Steger (2020), Globalization : A Very Short Introduction, (5th edition) Oxford : Oxford University Press マンフレッド・B・ステイガー (2010) (櫻井 公人(翻訳), 櫻井 純理(翻訳), 高嶋 正晴(翻訳)) 新版 グローバリゼーション (1冊でわかる) シリーズ				
参考書	Additional material will be provided in class				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	Exam			70	
	Class-based exercises			30	
注意事項	Learners will be expected to have a determination to study in English				
備 考	Additional material will be distributed during the course of the module				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
現代国際関係論 (Contemporary International Relations)					国際関係論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 4	高 山 英 男 (非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線 7686
授業の概要	現代の国際関係は、トランプ大統領の就任により、大きく変化しようとしています。イギリスのEU離脱や、中国の戦略的外交の強化など、これまでの秩序を変えようとする動きが強まっています。そこで、講義では、国際家計の理論から始めて、国際関係の構造、国際関係の課題について学習します。				
具体的な到達目標					
目標 1	国際関係の理論については、現在の国際関係を理解するための3つのアプローチについて理解して、それを使って世界を見直す				
目標 2	国際関係を構造的に理解する。				
目標 3	現代の国際政治の主要問題を理解する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに：講義の目標とねらいについて				
2	国際関係論のアプローチ (1) リアリズムとネオ・リアリズム				
3	国際関係論のアプローチ (2) リベラリズムとネオ・リベラリズム				
4	国際関係論のアプローチ (3) マルクス主義と世界システム論				
5	国際関係の構造 (1)				
6	国際関係の構造 (2)				
7	政治体制と国際関係				
8	国際連合の役割				
9	地域統合の未来 (1)				
10	地域統合の未来 (2)				
11	国連のPKO、人道的介入				
12	核兵器の廃絶				
13	グローバリゼーション (1)				
14	グローバリゼーション (2)				
15	まとめ：今日の世界情勢				
アクティブ ラーニング	より深く学ぶためには、テキストを読むだけでなく、参考書も読むようにして下さい。			その他の 授業の工夫	新聞の切り抜きなど背を使って、具体的な事件の理解を深める。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストを読んで、わからないところを書き出し、自分で調べてみる。2時間。			
	事後学修	レジュメを読み返し、参考文献を調べて、ノートにまとめておく。2時間			
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年				
参考書	読みやすい新書などを講義の中で指示します。参考文献はとても重要です。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	期末テスト			60	
	小テスト			10	
	質問内容			30	
注意事項	遅刻をしないように気をつけてください。あまり遅いときには、レッドカードを出します。				
備 考	日本や日本人を巻き込んだ大きな事件が起こっています。国際政治が身近なものになっています。ニュースやその背景に注目してください。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
現代国際関係史 (Contemporary International Political History)					国際関係論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	金 4	高 山 英 男 (非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線 7686
授業の概要	現在の国際政治の構造をアメリカの一極覇権構造としてとらえて、それがどのように形成され、維持されてきたかということを理解して、そのうえで、今後どのように覇権構造が展開するかについて、アメリカを中心に学習します。				
具体的な到達目標					
目標 1	アメリカを中心にして、ヨーロッパや日本、ロシア、中国などの主要諸国が絡んでいく、世界の政治構造について、簡単な説明				
目標 2	国際政治の歴史的理解を深める。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに：講義の目標とねらいについて				
2	アメリカ保守革命の世界戦略 (1)				
3	アメリカ保守革命の世界戦略 (2)				
4	アメリカ保守革命の世界戦略 (3)				
5	アメリカ保守革命の世界戦略 (4)				
6	冷戦終結後の新世界秩序の模索 (1)				
7	冷戦終結後の新世界秩序の模索 (2)				
8	冷戦終結後の新世界秩序の模索 (3)				
9	冷戦終結後の新世界秩序の模索 (4)				
10	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて (1)				
11	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて (2)				
12	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて (3)				
13	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて (4)				
14	現段階の世界政治の構造				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	より深く学ぶためには、テキストを読むだけではなく、参考書も読むようにして下さい。			その他の 授業の工夫	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の説明をする。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストを読んでくるとともに、わからないところを調べる。2時間。			
	事後学修	レジュメを読み直して、ノートと比較し、参考文献を読む。2時間。			
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年。				
参考書	そのつど講義中に指示します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	期末テスト			60	
	小テスト			10	
	質問用紙の内容			30	
注意事項	遅刻しないように。わからないことがあれば、質問用紙に書いてください。それだけでなく、自分で調べてみてください。				
備 考	アメリカは戦後世界をリードしてきた覇権国家です。大統領の戦略や具体的な政策が日本だけでなく、世界中の国々に影響を与えます。関心を持って勉強してください。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済地理学 I (Economic Geography I)					経済地理学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 3	大 呂 興 平 E-mail ohro@oita-u.ac.jp 内線 6751
授業の概要	私たちの身の回りの地域では、マンションの建設ラッシュ、大型店の進出と駅前商店街の衰退、農業の耕作放棄といった、さまざまな現象・問題が起きています。それらは、なぜ今、その場所で起きているのでしょうか。この問いに向き合うことは、地域を深く理解し、問題に対する確かな指針を与えることにつながっています。本講義では、産業立地の基礎理論を学ぶとともに、実態を概観することで、こうした知的作業の素地を養うことをねらいとしています。				
具体的な到達目標					
目標 1	地域で起きている経済現象を、立地の理論や日本経済に関する基礎知識を用いて説明できるようになる。				
目標 2	日本の地域が抱える経済問題やそれに対する政策について、具体的な意見を持ち、説明できるようになる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	環境決定論と環境可能論				
3	農業立地の理論 事例) 輸送技術の革新と移動する産地				
4	工業立地の理論 事例) 製鉄所はなぜ大分に立地したのか?				
5	イノベーションと産業集積の理論 事例) 日本の「学習する地域」				
6	小売業・サービス業立地の理論 事例) 公共サービスをめぐる立地問題				
7	都市内部構造の理論 事例) モータリゼーションと郊外				
8	商業集積の理論と中心商店街問題 事例) 大分の中心商店街をめぐる取組み				
9	小売業の立地競争と立地選択 事例) コンビニチェーンの立地戦略				
10	経済的地域間格差の理論 事例) 県民所得格差と人口移動				
11	中枢管理機能の立地と都市システム 事例) 企業の支店配置				
12	世界都市の登場 事例) 東京の外資系企業				
13	クリエイティブクラスと都市 事例) ITベンチャー企業の立地				
14	地方財政の理論 事例) 公共事業の変遷				
15	総括				
アクティブラーニング	毎回の授業の終わりに、授業内容や質問、感想等をまとめて提出してもらいます。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	列車の車窓から景色を眺めたり、街をぶらぶらと歩いたり、ふらりと旅に出たりする中で、目の前にある景色や出来事はなぜその場所で起きているのか、日常から意識的に考えてみるようにする (20h).			
	事後学修	配付資料やノートから復習する(20h).			
教科書	特に指定しません。				
参考書	山本健児『新版経済地理学入門』原書房				
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法			割合(%)	
	学期末テスト			70	
	レポート提出			30	
注意事項	講義内容の充実を図るため、毎回の講義で内容への感想、意見等を提出して頂くことを予定しています。また、授業中の私語、遅刻学生には厳しく対処します。				
備考	地域に興味がある人であれば、特別な予備知識は必要としません。高校時代に地理を履修していない学生も歓迎します。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済地理学Ⅱ (Economic Geography Ⅱ)					経済地理学Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	金 3	大 呂 興 平 E-mail ohro@oita-u.ac.jp 内線 6751
授業の概要	私たちの住んでいる大分県は、日本の中では大都市から遠く離れた「地方」であり、また、多くの農村部を抱えています。本授業では、「経済地理学Ⅰ」で学んだエッセンスを交えつつ、戦後日本の地方や農村部がたどった変化とそのメカニズムを学ぶことで、日本の地方や農村部で起きている経済現象をより実態に即して理解することをねらいとしています。				
具体的な到達目標					
目標1	地方で起きている諸問題について、それに関わる複雑な要因を解きほぐし、問題の構図を正確に説明できるようになる。				
目標2	日本の地域が抱える経済問題やそれに対する政策について、具体的な意見や考えを持ち、説明できるようになる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	日本の産業構造の変化と地域				
3	地域経済発展の原動力としての移出産業				
4	移出産業と乗数効果				
5	高度経済成長と太平洋ベルト地帯の成立				
6	財政トランスファーと国土周辺部の社会				
7	産業立地の分散化と全総				
8	戦後の農業政策と農村の変貌				
9	地方財政の危機と市町村合併				
10	農業保護政策の後退と農村				
11	新産業都市・大分の50年				
12	一村一品運動と大分県の農山村の50年				
13	別府と湯布院の50年				
14	姫島と保戸島の50年				
15	総括				
アクティブラーニング	毎回の授業の終わりに、授業内容や質問、感想等をまとめて提出してもらいます。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	列車の車窓から景色を眺めたり、街をぶらぶらと歩いたり、ふらりと旅に出たりする中で、目の前にある景色や出来事はなぜその場所で起きているのか、日常から意識的に考えてみるようにする(20h)。			
	事後学修	配付資料やノートをもとに復習する(20h)			
教科書	特に指定しません。				
参考書	授業で適宜紹介します。				
評価方法 成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	学期末試験			70	
	レポート提出			30	
注意事項	講義内容の充実を図るため、毎回の講義で内容への感想、意見等を提出して頂くことを予定しています。また、授業中の私語、遅刻学生には厳しく対処します。				
備考	地域に興味がある人であれば、特別な予備知識は必要としません。高校時代に地理を履修していない学生も歓迎します。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
労使関係論 (Labor-Management Relations Theory)					労使関係論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	火 3	石 井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉＝集団的労使関係で決まっていますが、近年、こうした集団的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。				
具体的な到達目標					
目標 1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。				
目標 2	労使関係の発展史を説明できる。				
目標 3	地域における労使関係の展開を述べることができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	労使関係はどういう学問か				
2	日本の労使関係の特徴と形成 (1)				
3	日本の労使関係の特徴と形成 (2)				
4	賃金問題と労使関係				
5	集団的労使関係の変化と労働市場				
6	人事管理の変化と労使関係				
7	企業別組合と労使関係				
8	組織化の課題				
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合				
10	政府と労使関係				
11	国際化が変える労使関係とは				
12	ワークライフバランスと労使関係				
13	ワークフェアと労使関係				
14	地域労働運動の現状と課題				
15	総括				
アクティブ ラーニング	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えていきます。			その他の 授業の工夫	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義時に指示をします。			
	事後学修	講義時に指示をします。			
教科書	毎回レジュメを配布します。				
参考書	①高橋祐吉・鷲谷徹・赤堀正成・兵頭淳史編(2016)『図説 労働の論点』旬報社。②石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析』法律文化社。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	課題レポート			30	
	期末テスト			70	
注意事項	授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。				
備 考					
リン ク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
西洋経済史 (History of Occidental Economy)					西洋経済史 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 2	市 原 宏 一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	先進的な工業化社会を生んだヨーロッパ地域を対象として、中世前期までのヨーロッパ経済社会の変容と展開をたどります。				
具体的な到達目標					
目標 1	中世盛期までのヨーロッパ経済史における基本構造を理解する。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	経済史の方法				
2	本源的な社会				
3	古典古代地中海世界 1 : 植民活動				
4	古典古代地中海世界 2 : アテネ「民主制」				
5	古典古代地中海世界 3 : ローマ「共和制」				
6	民族移動期のゲルマン社会				
7	中世前期ヨーロッパの農村				
8	中世前期ヨーロッパの農村				
9	中世前期ヨーロッパの流通・交易				
10	中世前期ヨーロッパの流通・交易				
11	中世盛期ヨーロッパの農村				
12	中世盛期ヨーロッパの農村				
13	中世盛期ヨーロッパの流通・商業				
14	中世盛期ヨーロッパの流通・商業				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。 ・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき、質問・意見を用意しておくこと			
	事後学修	時間中におこなった小テストの誤答箇所について、正解を確認して、ノートに整理しておくこと			
教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。				
参考書	上記と同じ。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	授業内小テスト			40	
	学期末試験			60	
注意事項					
備 考	講義が一方通行にならないように、小テストと同時に感想・意見 (A5判) をもらい、次回冒頭でそれへの回答・説明を行います。				
リ ン ク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験を いかした教 育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本経済史 I (Economic History of Japan I)					日本経済史 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 1	合 田 公 計 (非常勤講師) E-mail kgoda@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	現在と過去との対話。歴史を学ぶことと、現在起こっている問題を理解することには深いつながりがあります。基本的歴史認識を持っていることは、現在起こっていることが歴史的にどのような意味があり、将来にどのような影響を与えるかを理解する上で有用です。歴史認識が誤っていれば、現在の理解や将来の見通しに問題が生じます。この授業は、近現代日本の政治経済について、現在の問題と歴史との対話をしながら進めます。近現代日本政治経済史の重要論点を理解する。				
具体的な到達目標					
目標 1	戦後改革による日本社会の変容を学ぶ。				
目標 2	近年の社会的出来事の概要とその意味を理解する。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	近現代史の概要 産業革命から現在まで ①				
2	近現代史の概要 産業革命から現在まで ②				
3	戦後日本の政治経済の諸段階 ①				
4	戦後日本の政治経済の諸段階 ②				
5	最近の日本で何が起きているのか				
6	日本と戦争 ① アジア太平洋戦争概観				
7	日本と戦争 ② 戦争と経済				
8	日本と戦争 ③ 加害と被害				
9	日本と戦争 ④ 現在と戦争				
10	戦後改革とは何か ① 憲法草案は多くの日本人が書いた				
11	戦後改革とは何か ② 農地改革、労働改革、社会的諸改革				
12	逆コース サンフランシスコ体制 沖縄				
13	現在から未来の政治経済を考える ①				
14	現在から未来の政治経済を考える ②				
15	補論				
アクティブ ラーニング	毎回の授業後のミニミニレポートに感想や疑問を書いてもらい、双方向性を高める。授業に質疑を取り入れる。			その他の 授業の工夫	重要なドキュメント映像を利用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料を読み、問題の概要及び疑問点の把握をする。			
	事後学修	授業の概要をノートにまとめる。疑問点は質問をするなどして理解を深める。			
教科書	主に資料のプリントを使用して行います。				
参考書	①武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年年 ②データ・資料集：三和良一・原朗『近現代日本経済史要覧』東大出版会 ③2007年 江口圭一『二つの大戦(大系日本の歴史 14)』小学館 1993年 ④岩波新書のシリーズ日本近現代史 ⑤伊藤 修『日本の経済－歴史・現状・論点』中公新書 2007年。その他、授業中に知らせます。				
評 方 成 価 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験(資料、ノート持込可。記述 50%、マーク 50%)			90	
毎回の授業時のミニミニレポート(合否には影響しません)			10		
注意事項	覚えるのではなく、しっかりと考えましょう。				
備 考	戦後改革の簡潔な文献：竹前栄治『占領と戦後改革』岩波ブックレット。農業改革関連参考文献：合田公計『農地改革』、同『農業協同組合』(GHQ日本占領史 第33巻(1997年)、第34巻(98年)日本図書センター。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本経済史Ⅱ (Economic History of Japan Ⅱ)					日本経済史Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	金 1	合 田 公 計 (非常勤講師) E-mail kgoda@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	戦後日本経済史の基礎知識を学ぶことが狙いです。戦後日本経済の大まかな段階や、重要事項についてまなびます。第二次大戦後の経済は当初、ケインズの経済観・政策が大きな影響力を持っていましたが、1980年頃から市場原理主義的傾向が強化される方向に転換してきました。近年では、地域格差、企業格差、ワーキングプアの問題などが社会的関心を引き起こし、市場原理主義的政策への懐疑も提起されるようになってきました。こうした問題関心から、戦後経済史を学びます。				
具体的な到達目標					
目標 1	最近の日本の経済社会がどのような特徴を持っているのか、歴史的な大きな段階を踏まえながら理解する。				
目標 2	理論的基礎として産業連関表の仕組みを理解する。				
目標 3	投入係数と必要労働量、賃金、利潤、価格の関係を行列とエクセルを利用して計算する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに 現在の歴史的位置と問題				
2	戦後日本の経済社会の概要				
3	いま日本はどこに向かおうとしているのか				
4	異常円高とは何か 購買力平価に対する円高				
5	経済の基本的仕組 産業連関表の大まかな仕組み				
6	投入係数と必要労働量 技術と物的労働生産性				
7	技術、賃金、利潤、価格技術だけでは決まらない				
8	経済成長と需要 消費需要 蓄積投資 政府支出 輸出超過				
9	税制の「新」自由主義化 法人税、所得税、消費税				
10	労働組合の弱体化政策				
11	バブル崩壊 不良債権 不安定・低賃金労働の拡大政策				
12	賃金、利潤のトレンド GDPデフレーターと消費者物価指数				
13	何で需要を作るのか 公共土木事業か、軍事費か、それとも				
14	賃金主導型経済成長 需要がないと成長できない				
15	補論				
アクティブ ラーニング	毎回の授業後のミニミニレポートに感想や疑問を書いてもらい、双方向性を高める。授業に質疑を取り入れる。			その他の 授業の工夫	行列の知識とエクセルを活用して経済学上の計算問題を解き、実感を持って理解できるようにする。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料を読み、問題の概要及び疑問点の把握をする			
	事後学修	授業の概要をノートにまとめる。疑問点は質問をするなどして理解を深める。			
教科書	プリントで行います。				
参考書	<通史的参考書>として、①伊藤 修『日本の経済—歴史・現状・論点』中公新書 2007年 <理論面の参考書>として、②置塩信雄ほか『経済学』大月書店 1988年 ③中谷 武『価値、価格と利潤の経済学』勁草書房 1994年 ④菊本義治他『日本経済がわかる経済学』桜井書店 2007年 ⑤J.E.スティグリッツ『世界に格差をばらまいたグローバリズムを正す』徳間書店 2006年。その他授業中に知らせます。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	期末試験(資料、ノート持込可。記述 50%、マーク 50%)			90	
	毎回の授業時のミニミニレポート(合否には影響しません)			10	
注意事項	覚えるのではなく、しっかりと考えましょう。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済史 (Economic History)					資本主義発達史 I・II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	後期	木 2	市 原 宏 一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	西洋の工業化社会の仕組みはどのような歴史的前提から生まれ、地球的な規模に拡大していったのでしょうか。発端となったイギリスの産業革命を中心に、工業化の過程とその歴史的特徴を探ります。				
具体的な到達目標					
目標1	イギリスにおける工業化過程の学習を通じて、近代的な経済システム成立の歴史的特徴とその社会経済的帰結を理解する				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	内的要因と外的契機				
2	農村工業の展開				
3	農業革命				
4	市民革命				
5	消費習慣の変化				
6	大航海時代				
7	大西洋三角貿易				
8	機械制大工業の成立				
9	社会的帰結				
10	教育制度				
11	都市計画				
12	公衆衛生				
13	組織的労働運動の形成				
14	世界市場の確立				
15	補足とまとめ				
アクティブ ラーニング	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。 ・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき、質問・意見を用意しておくこと			
	事後学修	時間中におこなった小テストの誤答箇所について、正解を確認して、ノートに整理しておくこと			
教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。				
参考書	川北 稔『世界システム論講義』ちくま、2016 川北 稔『イギリス近代史講義』講談社、2010 秋田 茂『イギリス帝国の歴史』中公、2012				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	授業内小テスト			40	
	学期末試験			60	
注意事項					
備 考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済政策論 I (Theory of Economic Policy I)					経済政策論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	月 2	高 見 博 之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674
授業の概要	現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。ミクロ経済学の考え方をを用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し、経済政策の基本的な考え方を展開します。				
具体的な到達目標					
目標 1	市場が成功する状況を説明できる。				
目標 2	市場が失敗する事例を説明できる。				
目標 3	外部性が存在する場合の問題点を説明できる。				
目標 4	公共財が存在する場合の問題点を説明できる。				
目標 5	不完全競争の場合の問題点を説明できる。				
授業の内容					
1	政府の役割とは				
2	経済政策の課題				
3	市場均衡(1)：消費者行動				
4	市場均衡(2)：企業行動				
5	市場均衡(3)：市場均衡				
6	市場均衡と厚生経済学の基本定理				
7	政府の市場介入のコスト(余剰分析)				
8	市場の失敗				
9	外部性(1)：私的解決策				
10	外部性(2)：公的解決策				
11	公共財(1)：公共財の最適供給				
12	公共財(2)：リンダール・メカニズム				
13	独占と市場の失敗				
14	自然独占と価格設定				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。			その他の 授業の工夫	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)。			
	事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)。			
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。				
参考書	講義中に適宜提示しますが、以下の2冊を挙げておきます。常木 淳(2002)『公共経済学 第2版』、新世社。八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	講義時の小レポート			30	
	期末試験			70	
注意事項	板書により講義を進めます。				
備 考	本講義の分析手法は、専門基礎科目の初級ミクロ経済学(経済学Ⅱ)程度の水準です。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
公共経済学 (Public Economics)					公共経済学 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	水1	高見博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674
授業の概要	本講義では、市場メカニズムが有効に働かない場合の公共部門の活動を理解し、公共部門に関わる経済問題を経済理論(特にミクロ経済学)を応用することによって論理的に説明できる思考方法を身につけることを目的とします。				
具体的な到達目標					
目標1	市場が成功する場合の経済学的な前提条件を説明できる				
目標2	公共財が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる				
目標3	外部性が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる				
目標4	費用逓減産業が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる				
目標5	「インセンティブ」の考え方を説明できる				
授業の内容					
1	公共経済学とは				
2	微分の基礎と経済学1				
3	微分の基礎と経済学2				
4	厚生経済学の基本定理(1) 完全競争市場均衡				
5	厚生経済学の基本定理(2) パレート最適性				
6	公共財(1) 公共財の最適供給条件と市場の失敗				
7	公共財(2) リンダール・メカニズム				
8	公共財(3) クラーク・メカニズム				
9	外部性(1) 外部性と市場の失敗				
10	外部性(2) 外部性と私的解決策				
11	外部性(3) 外部性と公的解決策				
12	不完全競争(1) 費用逓減産業と市場の失敗				
13	不完全競争(2) 一律従量料金制				
14	不完全競争(3) 二部料金制				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。			その他の 授業の工夫	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)			
	事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)			
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。				
参考書	岸本哲也(1999)『公共経済学』(有斐閣)、伊藤隆敏(2017)『公共政策入門』(有斐閣)、小川光・西森晃(2015)『公共経済学』(中央経済社)、神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』(日本評論社)など。適宜、講義時に提示します。				
評 方 成 績 法 割 及 評 価 の 合 び の 価	評価方法			割合(%)	
	期末試験			70	
	平常点(小レポートなど)			30	
注意事項					
備 考	講義では明示的に数学的な手法(微分)を使用します。その内容については複数回の講義で説明するため、必ずしも事前に学習する必要はありません。「初級ミクロ経済学」「経済政策論I」を履修済みの学生を想定した講義です。				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
社会政策 (Social Policy)					社会政策論 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	金 3	石 井 ま こと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。				
具体的な到達目標					
目標 1	社会政策が取り扱う問題に対して「なぜ？」という関心が高まる。				
目標 2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、多様な評価ができる。				
目標 3	自ら調べてみようとする人になる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	社会政策とはどういう学問か				
2	社会政策の方法(1)－経済学的手法				
3	社会政策の方法(2)－政治学的手法				
4	社会政策の方法(3)－社会学的手法				
5	社会政策の対象?仕事と生活の関係				
6	社会政策の研究史(1)－欧米編				
7	社会政策の研究史(2)－日本編				
8	社会政策の研究史(3)－東アジア編				
9	賃金・労働時間に関わる争点				
10	雇用問題に関わる争点				
11	労使関係・労働組合に関わる争点				
12	社会保障に関わる争点(1)－年金・医療・介護				
13	社会保障に関わる争点(2)－福祉・公的扶助				
14	ジェンダーに関わる争点				
15	総括				
アクティブ ラーニング	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えていきます。			その他の 授業の工夫	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義時に指示をします。			
	事後学修	講義時に指示をします。			
教科書	特に指定しません。レジュメを講義で配布します。				
参考書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方で生きる若者たち』旬報社。高橋祐吉・鷲谷 徹・赤堀正成・兵頭淳史編(2016)『図説 労働の論点』旬報社。石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編(2019)『よくわかる社会政策(第3版)』有斐閣。石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析－労働社会未来を拓くために－』法律文化社。その他講義中に紹介していきます。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	授業レポート			30	
	期末テスト			70	
注意事項	予習が可能なように事前問題を毎回用意します。また、質問時間を適宜とりますので、遠慮なく質問してください。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実 務 経 験 を い か した 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
セミナー「働くということと労働組合」 (Work and Trade Union Seminar)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3,4	後期	水 4	石 井 ま こと ・ 小 山 敬 治 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	この授業は、寄附講義「働くということと労働組合」の応用科目として位置づけられ、労働現場で起きている実際の諸問題を事例をもとに、少人数のグループ・ディスカッション形式で解決策を考えていく授業です。労働問題を真剣に考えてみたい学生のみなさんの受講を期待しています。				
具体的な到達目標					
目標 1	労働問題の具体的な内容を知ることができる。				
目標 2	労働条件の維持・向上の仕組みを理解できる				
目標 3	議論を通じて、適切な解決策を導き出すことができる。				
目標 4	ワークルールを正しく理解している。				
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション：労働条件はどのように決まるか				
2	ワークルールはどの程度広まっているのか				
3	労働組合の役割とは				
4	事例検討①賃金問題（1）：事例紹介と討論				
5	賃金問題（2）：解決に向けた取り組み方法				
6	事例検討②長時間労働（1）：事例紹介と討論				
7	長時間労働（2）：解決に向けた取り組み方法				
8	事例検討③女性差別問題（1）：事例紹介と討論				
9	女性差別問題（2）：解決に向けた取り組み方法				
10	ワークルールが広まる労使関係にするために①グループ内討論（問題理解）				
11	ワークルールが広まる労使関係にするために②グループ間討論（多様な意見の聞き取り）				
12	ワークルールが広まる労使関係にするために③グループ報告の作成（1）				
13	ワークルールが広まる労使関係にするために④グループ報告の作成（2）				
14	ワークルールが広まる労使関係にするために⑤グループ報告と評価				
15	総括討論				
アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッションを積極的に活用し、議論が活発にできるようにしていきます。また、Slack(ビジネスアプリ)を活用し、教員・学生間のコミュニケーションを充実させていきます。			その他の 授業の工夫	労働問題を抱えている当事者の方をゲストとして登場してもらい、解決策と一緒に考えます。自分が当事者になったと考えてもらえるように、授業を進めていきます。
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	これまで受講してきた労働問題関係の授業の復習をすること。「働くということと労働組合」をはじめ、「社会政策」、「労使関係論」、「労働関係法Ⅰ」、「労働関係法Ⅱ」などレジュメおよびノートを使って、学習内容を振り返ってください。			
	事後学修	授業で扱ったワークルールや事例について、他にどのような事例があるか調べてください。その上で、その事例の解決策を自分で考えて、次回報告できるようにしてください。			
教科書	授業の進行に応じて、授業をより深く理解してもらうため、参加者と相談のうえ、指定する場合があります。				
参考書	授業内で適宜紹介します。とりあえず、高橋祐吉・鷺谷 徹・赤堀正成・兵頭淳史編(2016)『図説 労働の論点』旬報社を挙げておきます。ワークルール検定に関連した書籍もお勧めです。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	授業内での課題への取り組み プレゼンテーション			50 50	
注意事項	セミナー形式ですので、出席・参加意欲を重視しますので、欠席しがちな人は遠慮してください。受講生数は10名程度です。9月の後期ガイダンスにて受講者調整を行いますので、必ずガイダンスに出席してください。				
備 考	現実進行形の労働問題を含めて、皆さんが就職後にも役立つ知識になるような授業にしていきたいと考えています。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
社会保障論 (Social Security)					社会保障論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	水 2	阿 部 誠 E-mail mabe@oita-u.ac.jp 内線 7682
授業の概要	社会保障は、生活上のリスクに対応し、人々の生活の安定をはかるための国の制度ですが、今日、経済社会の変化や高齢化の下で大きな転換点に立ち、社会保障のあり方が問われています。この講義は社会保障論の総論として、まず社会保障の歴史とともに、その理念や体系についての理解を深めます。そのうえで福祉国家がどのように発展したか、福祉国家を比較しながら検討します。そして、今日の社会保障、福祉をめぐる基本的な論点のうえにたって今後の福祉社会のあり方について考えます。				
具体的な到達目標					
目標 1	社会保障・福祉国家の形成過程を歴史的に理解します。				
目標 2	社会保障とはどのようなものか、社会保障の原理や体系について理解します。				
目標 3	今日の社会保障や福祉政策をめぐる基本的論点について理解し、今後の福祉社会のあり方を考えます。				
目標 4	自分たちの暮らしにおける社会保障の役割について理解します。				
目標 5					
授業の内容					
1	現代社会と社会保障 ― はじめに				
2	貧困問題と救貧法				
3	産業社会における自助の原理				
4	産業社会と社会政策				
5	社会保険の成立				
6	社会保険から社会保障へ				
7	現代社会保障の理念				
8	社会保障の体系				
9	社会保障の機能				
10	戦後福祉国家の形成				
11	福祉国家の危機				
12	戦後福祉国家の国際比較 (1)				
13	戦後福祉国家の国際比較 (2)				
14	福祉政策における就労と所得保障				
15	現代社会保障の課題				
アクティブラーニング	授業は、受講生と対話しながら進める予定です。ミニレポートなど課題の提出を求めることがあります。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	基本的には指定する参考文献や新聞、雑誌の記事を読みマスメディアの情報の入手に努めてください。			
	事後学修	講義レジメに記載された参考文献や授業であげた文献などを読むことに努めてください。			
教科書	講義のなかで、講義内容を記したレジメを配付します。				
参考書	レジメのなかに掲載します。				
評価方法	評価方法			割合 (%)	
成績評価方法及び評価の割合	定期試験の成績			100	
注意事項	講義を漫然と聞くだけでなく、社会保障のあり方について自分の頭で考えてほしいと思います。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本の社会保障 (Social Security System in Japan)					日本の社会保障
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	水 2	阿 部 誠 E-mail mabe@oita-u.ac.jp 内線 7682
授業の概要	今日、少子高齢化の進展、家族の変化、社会経済構造の変動の下で、社会保障・福祉サービスへのニーズはますます高まるとともに多様化しています。その一方、財政問題や効率性の問題、あるいは市場原理の導入などの点から年金、医療保険も、社会福祉サービスも、ともに多面的な課題を抱えており、社会保障改革をめぐってさまざまな議論が行われています。この講義では、日本の社会保障の現状を理解するとともに、人口変動や家族、生活構造の変化、社会経済構造の変動を踏まえて、日本の社会保障の改革課題を考えます。				
具体的な到達目標					
目標 1	日本の社会保障の発展過程の特質を理解します。				
目標 2	日本の社会保障の制度体系とその特徴を理解します。				
目標 3	今日、日本の社会保障が直面している問題点と、また、その社会経済的背景について考えます。				
目標 4	社会保障改革をめぐる基本的論点を理解し、日本の社会保障の課題を考えます。				
目標 5	自分たちが働き、暮らす今日の日本の社会において今後の社会保障はどうあるべきかを考えます。				
授業の内容					
1	社会保障の原理と体系				
2	日本の社会保障の形成過程(1)				
3	日本の社会保障の形成過程(2)				
4	日本の社会保障の体系と特徴				
5	社会経済構造の変化と社会保障財政				
6	現代の家族の変化と社会保障				
7	日本の年金保険の制度				
8	日本の年金の実態と課題				
9	日本の医療保険制度				
10	日本の医療費問題と医療保障の改革課題				
11	生活保護制度とその実態				
12	今日の貧困問題の焦点と社会的包摂				
13	介護保険制度の成立の背景と変遷				
14	介護保険制度の課題				
15	新しい社会的リスクと社会保障・福祉政策の課題				
アクティブラーニング	授業は、受講生と対話しながら進める予定です。また、場合によっては、受講生に報告や課題の提出を求めることもあります。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	指定する参考文献や関連した新聞記事などを読み、情報の入手に努めることが重要です。また、日本の社会保障の現状について、社会保障年鑑や厚生労働白書などを通じて調べてほしいと思います。			
	事後学修	講義レジメに記載された参考文献や授業であげた文献などを読むことに努めてください。			
教科書	講義のなかで、講義内容を記したレジメを配付します。				
参考書	授業のなかで指示します。				
評価法・成績評価及び評価の割合	評価方法			割合(%)	
	定期試験の成績			100	
注意事項	この授業では講義だけでなく、学生に報告してもらおうこともあるので、積極的な姿勢で臨んでほしいと思います。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
財政学 I (Public Finance I)					財政理論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	水 2	林 勇 貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705
授業の概要	公園などの公共財の供給、社会保障、景気対策など、政府や自治体は多くの活動を通して、私たちの生活を支え、望ましい社会を実現しています。しかし、近年、財政状況は厳しくなるとともに、高齢化社会にともなう年金問題や地域間格差など解決すべき問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めています。本講義では、様々な財政問題の①現状を把握し、②問題発生の原因を探り、③問題解決の糸口を考えていきます。				
具体的な到達目標					
目標 1	政府の役割を理解する。				
目標 2	財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。				
目標 3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクションー財政学とはー				
2	日本の財政状況を考える				
3	財政赤字の問題点 (1)				
4	財政赤字の問題点 (2)				
5	経済活動における財政の役割				
6	財政の役割ー資源配分機能とその効果ー				
7	政府支出の理論ー効率性ー				
8	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー (1)				
9	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー (2)				
10	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー (3)				
11	政府の失敗を考える				
12	財政と経済安定ー経済安定化機能とその効果ー				
13	経済安定化のメカニズム (1)				
14	経済安定化のメカニズム (2)				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	講義資料の配布と板書を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言やアンケート、レポートを求める。また、授業終了後に質問を受け付ける。オンライン授業の場合はMoodleに動画をアップロードするオンデマンド形式で行う。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通すことを勧める。			
	事後学修	理解できなかった点を明確にするため、復習することを勧める。			
教科書	特に指定なし				
参考書	林 宜嗣・林 亮輔・林 勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	学期末試験			80	
	授業内レポート			20	
注意事項	特になし				
備 考	特になし				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
財政学Ⅱ (Public Finance Ⅱ)					財政政策・租税論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	水 2	林 勇 貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705
授業の概要	財政学Ⅰでは、望ましい社会を実現するために必要な「財政の役割」について主に解説しました。財政学Ⅱの前半では「財政の役割」として、社会保障の目的と課題について考え、問題解決の糸口を探ります。「財政の役割」を国や自治体が果たすには、財源が必要ですが、近年、少子高齢化によって財源調達が困難になっています。財政学Ⅱの後半は財源調達方法としての税の役割について考えます。				
具体的な到達目標					
目標 1	政府の役割を理解する。				
目標 2	財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。				
目標 3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクションー財政学とはー				
2	所得分配の実態と財政による再配分 (1)				
3	所得分配の実態と財政による再配分 (2)				
4	社会保障の目的				
5	社会保障の課題ー年金ー				
6	社会保障の課題ー医療等ー				
7	財政の役割のまとめー国と地方の役割分担ー				
8	地域の検証ー回帰分析を学ぼうー				
9	税の役割と租税原則 (1)				
10	税の役割と租税原則 (2)				
11	課税と経済効率				
12	日本の主要な税ー所得税ー				
13	日本の主要な税ー消費税ー				
14	日本の主要な税ー法人税ー				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	講義資料の配布と板書を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言やアンケート、レポートを求める。授業終了後に質問を受け付ける。また本講義で学んだ分析方法を活用し地域の課題を検証する。オンライン授業の場合はMoodleを使ったオンデマンドで行う。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通すことを勧める。			
	事後学修	理解できなかった点を明確にするため、復習することを勧める。			
教科書	特に指定なし				
参考書	林 宜嗣・林 亮輔・林 勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	学期末試験			70	
	授業内レポート			30	
注意事項	特になし				
備 考	特になし				
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に 関わる実務経験者の 有無					
教員以外の指導に 関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
金融論 I (Finance I)					金融論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	火 2	小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	<p>お金ってなんだろう。コンビニでモノを買ったりするときに使うもの、将来のために貯めておくもの、同じようなモノでもどちらを買えばいいか比較する時に尺度として使うもの、などなど。お金はみなさんが経済活動をする上で必ずといっていいほど一緒についてきます。こうした身近な「お金」について、その流れに関わる経済現象を取り扱うのが金融論です。本講義では、金融の基礎を学ぶとともに、それが私たちの生活の中でどのような役割を果たしているか理解できるようにします。</p>				
具体的な到達目標					
目標 1	①貨幣・金融の概念、②金融制度、③金融行政・金融政策の3つの分野について基礎知識を習得すること				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	貨幣(テキスト第2章)				
3	金利(第3章)				
4	金融政策のためのマクロ経済学(第4章)				
5	金融政策の課題と日本銀行(第5章)				
6	金融政策の基本手段と新しい展開(第6章)				
7	金融システムと金融仲介機関の役割(第7章)				
8	銀行以外の金融機関(第8章)				
9	金融システム安定化のための政策(第9章)				
10	金融機関の経営破たんへの対応策(第10章)				
11	金融市場に関する規制(第11章)				
12	間接金融型の金融商品(第12章)				
13	直接金融型の金融商品(第13章)				
14	ファイナンスの基礎理論				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	知識の定着・確認のため振り返りノートの記入と提出があります。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	次回学習する章のレジメを作成する。日頃から金融に関する報道や情報に触れ、自らの考えをまとめられるようにする。			
	事後学修	授業終了後、振り返りノートを記入し、提出する。			
教科書	家森信義(2019)『金融論(第2版)ベーシック+』, 中央経済社, 2,420円				
参考書	小林照義(2020)『金融政策(第2版)ベーシック+』中央経済社, 2,530円 講義中にも適宜指示します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	レジメの提出+小テスト			50	
	期末テスト			50	
注意事項	振り返りノートの提出を出欠確認の代替としますので、3分の2以上の提出がない場合、期末テストの受験資格を失うこととなります。また、授業では教科書以外の資料を用いる場合があります。				
備 考	この授業では実体経済と金融の関係を学びます。マクロ経済学やミクロ経済学の基礎知識を身につけていることが重要です。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況によってオンラインになる場合があります。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>				
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
金融論Ⅱ (Finance Ⅱ)					金融論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	木 3	小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	<p>経済のグローバル化、金融の資本市場化が進むにつれて金融市場は不安定化し、頻繁に金融危機が発生するようになりました。また、銀行・証券など金融仲介機関を巡る環境は大きく変化しており、中央銀行の政策運営にも大きく影響を及ぼしています。本講義では「金融論Ⅰ」で学んだ知識をベースに、実体経済と金融情勢の変化を歴史的に俯瞰し、金融業そして中央銀行の役割について考察します。また最近の技術革新の進展と金融の将来について考えます。</p>				
具体的な到達目標					
目標 1	戦後の日本経済と金融情勢の特徴を理解する				
目標 2	銀行や証券などの金融仲介機能の役割や金融市場のリスクを理解できるようにする。				
目標 3	中央銀行の役割を説明できるようになる				
目標 4	金融を巡る最近の潮流を理解できるようにする				
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	高度経済成長期の日本経済				
3	高度経済成長期の財政金融政策				
4	ブレトンウッズ体制崩壊後の日本経済と金融政策				
5	ブラザ合意と日本のバブル				
6	バブルと金融市場				
7	バブル崩壊と日銀の金融政策運営				
8	不良債権問題と円高				
9	金融政策とプルーデンス政策				
10	サブプライム危機発生のメカニズム				
11	グローバル金融危機と金融政策				
12	金融イノベーション				
13	貯蓄と投資				
14	金融業界の行方				
15	まとめ				
アクティブラーニング	授業終了後には知識の定着・確認のため、毎回振り返りノートを提出してもらいます。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	事前に資料をMoodleに掲載する場合があります。資料を読んで理解できない専門用語はあらかじめ調べておくことが重要です。			
	事後学修	授業終了後、振り返りノートの記入と提出があります。			
教科書	特に使用しません。				
参考書	岩田規久男(2009)『金融危機の経済学』東洋経済新報社。香西泰, 白川方明(2001)『バブルと金融政策』日本経済新聞社。 橋木俊昭(2003)『戦後日本経済を検証する』東京大学出版会。				
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法			割合(%)	
	振り返りノートと小テスト			50	
	期末テスト			50	
注意事項	本講義は応用科目ですので、基礎知識がなければ授業を理解することは難しいと思われます。①『金融論Ⅰ』を受講していること、②金融に興味を持っていることが楽しく授業に参加するための重要なポイントとなります。				
備考	将来、銀行・証券会社等金融機関への就職を目指す学生諸君にとっては、必須科目といってもよいでしょう。新型コロナ感染拡大の状況によっては、オンライン授業になる場合もあります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の 実 務 経 験	エコノミスト、為替ストラテジスト				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストの経験を有する教員が、グローバルな視野から実体経済と金融の関係について解説します。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
証券論 (An Introduction to Securities Market)					証券論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3	前期	月 2	金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	本講義の目的は、証券そのものや証券市場に関する基礎知識を身につけることにある。証券とは何か、株式や債券とは何か、またこれらの証券が発行・流通される証券市場とは何かについて学習する。				
具体的な到達目標					
目標 1	証券市場の基礎から学習をスタートさせ、証券市場の全般的な仕組みを理解できるようにする。				
目標 2	最終的には、日々変化している証券市場の現状を把握できるようにする。				
目標 3	レポートや株式投資ゲームの報告書をつうじて株式市場についての分析能力を高める。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス (証券とは何かや講義の進め方について)				
2	株式の基礎				
3	債券の基礎と株式投資ゲームについて				
4	理論株価と株価の決定要因				
5	株式市場の様々な指標				
6	株式の投資尺度				
7	上場株式の比較分析				
8	中間まとめ (株式投資ゲームについて確認を含む)				
9	ベンチャー企業と上場制度				
10	株式市場の実際その 1				
11	株式市場の実際その 2				
12	債券投資と利回り分析				
13	投資信託の仕組み				
14	投資信託と証券市場				
15	総まとめ				
アクティブ ラーニング	株式投資ゲームの報告書の作成、レポートの提出			その他の 授業の工夫	報告書を作成するためには、日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	日々の経済指標を確認しておく。			
	事後学修	配布資料を用いて復習する。			
教科書	教科書は指定しない。毎回プリントを配付する。				
参考書	日本経済新聞社『やさしい株式投資』第2版2017年。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	株式投資ゲームの報告書			10	
	レポート			10	
	テスト			80	
注意事項	経済新聞を読み、授業に参加すること。				
備 考	毎回、授業内容に関する質問アンケートと出席をとる。小テストを行うことがある。				
リ ン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
証券市場論 (Securities Market)					証券市場論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3,4	後期	月 2	金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	本講義の目的は、証券市場に関する知識をより深めていくことにある。前期の証券論の講義内容が総論であれば、この講義は各論にあたり、より専門的な内容を取り入れ、証券市場の理解をさらに深める。				
具体的な到達目標					
目標 1	証券市場の全体像を把握するとともに、国民経済における証券市場がどのような役割を果たしているのかがわかるようになる。				
目標 2	株式投資ゲームを実施することにより、日々変化する経済や証券市場の動きをキャッチし、理解できるようになる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス (株式投資ゲームについてを含む)				
2	ストックオプションと新株予約権				
3	株式公開 (IPO) について				
4	債券市場と格付け				
5	株式投資と行動経済学				
6	証券市場のプレイヤーその 1				
7	証券市場のプレイヤーその 2 (インサイダー取引についてを含む)				
8	中間まとめと株式投資ゲームの進捗状況について				
9	デリバティブの概念と意義				
10	オプション取引についてその 1				
11	オプション取引についてその 2				
12	先物取引についてその 1				
13	先物取引についてその 2				
14	スワップ取引について				
15	総まとめ				
アクティブ ラーニング	株式投資ゲームの報告書、レポートの提出			その他の 授業の工夫	日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	日々の経済指標の確認			
	事後学修	配布資料を用いた復習			
教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。				
参考書	大村敬一・佐野雅司『証券論』2014年、有斐閣。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	株式投資ゲームの報告書			10	
	レポート			10	
	テスト			80	
注意事項	証券論の受講が必要。				
備 考	毎回アンケートと出席をとる。小テストを行うことがある。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

